＜全体集会発言＞　京都臨時教職員　　宅間さん

こんにちは。京都教職員組合、臨時教職員対策部で、書記長をやらせていただいております宅間と言います。よろしくお願いします。

　職場は、京都府立の特別支援学校の寄宿舎です。定数外の臨時的任用の寄宿舎指導員をしています。定数外の臨時的任用の教職員というのは、学校現場ではたくさん置かれているんですが、いま現在本来であれば必要な数を、将来的には人が余るからというような理由で臨時でみているというのが、定数外というふうに思ってもらったらと思います。私はその定数外の寄宿舎指導員で、もちろん正規と同一労働ですけれども、いま13年目を迎えています。１年任期なんですけれども、結果として繰り返し任用されてということになっています。

　今日、教育の現場における非正規の実態ということで、発言と言われたんですけれども、何分力不足ですので、十分なことがお話できるか自信がありません。この場に来ると緊張もしてしまいますので、十分なこと…、間違ったことを言ってしまうかもしれませんけれども、お許しいただきたいと思います。私自身の知っている範囲、わかる範囲で少し概略になるかもしれませんが、お話ができたらと思います。

　教育の現場ですけれども、社会と同様だと思いますが、非正規の教職員拡大が、ますます進んでいます。学校現場では、非正規というよりは臨時教職員という言い方をしていますが、文科省の調査でも、古い数字ですが、1955年には全教職員中５％だったのが、2007年には14％が臨時教職員という数字も出てきています。これは数字上のことで、実際的にはもっと多いだろうというのが実態でもあろうと思いますし、実感としてもありますし、全国で言うと20万人は超えているだろうと言われてきています。

　そういった臨時教職員の非正規教職員の／／法というのが、常態化しているというのが、いまの現状だと思います。正規採用を減らして、臨時でまかなうという、正規を臨時に置き換えるというところから、いまは定数を崩したりとかいう形で、常勤じゃなくて非常勤待遇の教職員というのが、どんどん増やされているというのがあります。

　特色ある学校作りとかいう形で、例えば、何々教育推進のための何とか何とか指導員とか、ほんとうにとても長い名前で覚えられないんですけども、学校のなかにもいろんな名前で、いろんな種類の、いろんなタイプの非常勤教職員というのが置かれているという形で、私の職場でも、40人か50人の非正規がいるんですけども、それぞれがどういう条件で、どういう仕事、どういう任用形態なのかとなると、ほんとうにお互いにわかりあえないというような状況も生まれてきています。

　夜に電話がかかってきて、「明日から仕事をしてください」というようなケースもほんとうにたくさんありますし、任用条件の明示なんかも十分されてないなかで、自分自身もどんな労働条件で働いているのかということすら、もうわからないというようなケースも出てきています。

　ほんとうに学校現場で非正規が増やされるなかで、いま先生が足りないという状況も生まれてきていますし、新学期が始まったのに、担任の先生がいないというようなクラスも全国でもいくつか報告も聞いているところです。

　教育、私自身が考えるところですけれども、ほんとうに夢をもって子どもたちと一緒にこの仕事を続けていきたいと思っています。教育というのは、マニュアル通りに言われたことを教えるだけじゃなくて、日々の子どもの姿から、それを基にしながら、明日からはどうしていこうとかいう形で展開していくのが、まさに教育の営みだろうと思っています。そんななか、任期であるとか、勤務時間が限られた職種がどんどん増やされているという状況で、これからの教育であるとか、学校、子どもたちが、ほんとうにどういうふうになっていくんだろうということでは、とても心配をしているところです。

　皆さんご存じかと思いますが、大分の方で教員採用に関わっての事件がありました。教員に限らず教職員ですけれども、採用に当たっては全国的にも不透明な状況が報告もされてきているところです。コネ採用というような言葉も身近なところでも聞きますし、ほんとうにもしかしたら事実なのかもしれないということも感じています。決して大分だけのことではなくて、全国いろんなところで、大なり小なりそういった状況も、ほんとうに事実としてあるのかもしれないと感じざるを得ません。

　そういったなか、ものを言う人が採用にならない。採用されるためには、それは正規採用に当たっても、臨時としての採用に当たってもですが、「とにかく黙っていなさい」というようなことも多々言われています。私のようにこういう場で発言するなんてのはもってのほかで、「そんな人は採用しません」とか、ほんとうに噂もされるところですし、事実なのかもしれないと思っています。

　そんななか、なかなか当事者自身が立ち上がり、つながり合いというようなとこが、ほんとうに困難な状況に置かれているというところがあるんです。けれども、こんな状況ですので、青年を中心につながり合おう、立ち上がろうという人も着実に増えてきているのが、最近かなと思います。

　私自身もまだまだ学ばなければならないこと、今日もいろんなお話を聞けてよかったなと思っているんですが、たくさんあります。これからも幅広い年代等々で、共にとりくみを進めていきたいと思います。よろしくお願いします。（拍手）